

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学1年	未来探究	社会	地理	2
教科書・教材				
『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）	
地球上の様々な国や地域に住む人々の生活への理解を深め、地理の基礎的な知識と情報を活用する能力を定着させる。また、その知識を活用し、教科横断的な視点で物事を捉え、表現できる力を身につける。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	世界の地域構成を取り上げ、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現力を身に付ける。地球儀に触れ、地図帳の使い方や資料の見方に習熟し、EdTech 教材を用いて基礎用語の復習を促す。 ・世界の地域構成 ・日本の地域構成
	世界各地の人々の多様な生活について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連付けて理解する。また、アジア州を概観し、アジアにおける急激な人口増加と経済発展が与えている影響や、それによって生じる課題を、主体的に追究する。EdTech 教材で演習に取り組み、1 学期の復習と重要語句の定着を図る。 ・世界各地の人々の生活と環境 ・アジア州
2 学期	ヨーロッパの自然環境や文化の共通性と多様性を理解し、EU 統合の背景と課題、人々の生活に与える影響を考察する。また、アフリカ州の特色についての関心を高め EU 諸国との関係やモノカルチャー経済に着目しながら発展のために必要な支援について追究する。EdTech 教材を利用しながら、理解力に応じた演習に取り組む。 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州
	アメリカ合衆国における民族の多様性や広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解する。また、独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長について、発展の一方で起こる経済格差や環境破壊などの問題解決策を考察する。 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州
3 学期	オセアニア州の自然環境と歴史を理解し、それらと結びつく産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解する。また、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察する。EdTech 教材によって1年間の総復習を行い、自発的な学習の習慣化を目指す。 ・オセアニア州
評価方法	
定期考査7割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。評定は地理2：歴史1の割合で合算し、社会科として算出する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学2年	未来探究	社会	地理	2
教科書・教材				
『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）	
<p>中学1年で学んだ世界地理の知識を基礎として、日本の地理的特色を理解する。また、日本の地域的な特色がどのように変遷し、どのような課題を抱えているか、身近な地域との関わりを通して、主体的に追究する。写真・グラフなど様々な資料を適切に選択して読み取る力も身につける。</p>	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、雨温図など、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解する。EdTech 教材で反復演習に取り組むことの重要性と有効性を実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の地域的特色</li> </ul> <p>九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解し、九州地方の自然環境を生かした産業や、防災の取り組みにおける課題と、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応に関連付けて考察し、表現する。1 学期の復習は EdTech 教材を活用して行い、理解度に応じて発展学習へとつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州地方</li> </ul>
2 学期	<p>地図や資料から、中国・四国地方は交通・通信網による発展、近畿地方は自然環境や歴史的景観の保全を中心に、それに関連する産業や生活の変化について理解する。また、それぞれの地域の特性から多面的・多角的に考察する。EdTech 教材を利用しながら、理解力に応じた演習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・四国地方</li> <li>・近畿地方</li> </ul> <p>中部地方は三つの地域において、それぞれ異なる産業が発達・変化した背景を、関東地方は、人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を、地図や統計などから読み取る力を身に付ける。EdTech 教材を用いて 2 学期の復習を行い、正確な知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方</li> <li>・関東地方</li> </ul>
3 学期	<p>東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を地図や写真などから読み取り、地域的特色や課題の解決法を考察する。北海道地方は、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や、自然環境を生かして発展させてきた産業の特色を理解する。EdTech 教材で知識の定着度を確認し、次年度の学習につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北地方</li> <li>・北海道</li> </ul>
評価方法	
<p>定期考査7割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。評定は地理1：歴史1の割合で合算し、社会科として算出する。</p>	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学1年	未来探究	社会	歴史	1
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）	
<p>古代の分野では、古代文明や宗教が起こった地域や環境などに着目し、都市や国家間で発達した技術・建造物・身分制度などに共通の特徴があることを考察する。そして、日本は東アジア世界の影響を受けながら国家を形成していったことを様々な視点から追究する。中世の分野では、武家社会の展開と、武家社会を揺るがす出来事がユーラシアの変化や東アジア世界との密接なかかわりの中で生まれたことを理解する。</p>	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>歴史上の人物や出来事などと、時代区分の関わりを適切に表現する力をつける。世界の古代文明や宗教のおこりを基に築かれた古代文明を理解し、農耕の広まりや生産技術の発展、他地域との交流により、政治や文化に起こった変化を考察する。EdTech 教材を活用しながら、基礎用語の内容理解と知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史の流れと時代区分</li> <li>・ 人類の登場から文明の発生へ（古代：旧石器～）</li> </ul> <p>東アジアの文明の影響を受けながら、日本でも国家が形成されたことを大観し、古代社会が変化していった様子を多面的・多角的に考察し、表現する。EdTech 教材によって1 学期の内容を振り返り、次学期の学習につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東アジアの中の倭（日本）（古墳～）</li> <li>・ 中国にならった国家づくり（飛鳥～）</li> </ul>
2 学期	<p>政治の実権が天皇から貴族に移行していったことを理解し、平安時代の文化の特色を、諸資料から適切に読み取る力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展開する天皇・貴族の政治（平安～）</li> </ul> <p>武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、出来事を相互に関連付けるなど、中世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察する。2 学期の復習を EdTech 教材で行い、正確な知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 武士の世の始まり（中世：鎌倉～）</li> </ul>
3 学期	<p>新たな政治の支配者となった武士の政治の展開とともに、鎌倉時代の文化の特色を、具体的な文化財とその特徴を基にして理解する。また、ユーラシアの変化の中で起こった元寇など、東アジア世界と密接に関わっていることを考察し、その影響を読み取る。古代から中世までの総復習を EdTech 教材を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 武家政権の内と外</li> </ul>
評価方法	
<p>定期考査7割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。評定は地理2：歴史1の割合で合算し、社会科として算出する。</p>	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学2年	未来探究	社会	歴史	2
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）	
<p>中世後期には産業が発達し、民衆の力が成長を見せる一方、各地で戦乱が広まり社会が大きく変化した。近世の日本は、ヨーロッパ世界と接触する中で社会が大きく変化し、欧米諸国から「近代化」の影響を受け、日本も近代国家としての基礎が整えられたことを理解する。時代ごとの特色や背景を考察し、現代の日本とのつながりを追究する。</p>	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>室町時代に農業や商工業が発達した理由や、民衆の成長が社会に与えた影響を、生産力の高まりと交通の発達に着目して考察する。また、武士や庶民の相互関係に着目して、中世の日本と世界を大観し、時代の特色を歴史的な視点で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の結びつきが強まる社会（室町～）</li> </ul> <p>ヨーロッパ人来航の背景と影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解する。中世までの基礎知識の定着度を EdTech 教材で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大航海によって結びつく世界（近世～）</li> <li>・戦乱から全国統一へ（戦国～）</li> </ul>
2 学期	<p>江戸幕府が成立し、大名の統制を基に、幕藩体制の確立したことを理解する。対外面についてはキリスト教の禁止と貿易の独占という視点から、国内での諸産業の発達や元禄文化が広がった理由について、近世の社会の変化の様子から考察し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武士による全国支配の完成</li> <li>・天下泰平の世の中（江戸初期～）</li> </ul> <p>貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化から、近世社会の基礎が動揺していったことを理解し、それに対する幕府の政治改革を整理する。よりよい社会の実現のため、新しい学問や教育の広がりが与えた影響について考察する。歴史的事象の内容を確認しながら、EdTech 教材で基礎知識を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化と幕府の対策（江戸中期～）</li> <li>・欧米諸国における「近代化」（近代～）</li> </ul>
3 学期	<p>欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成を理解する。また、工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響を考察し、時代の特色を表現できる。EdTech 教材で1年間の復習を行い、現代史の学習につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治政府による「近代化」の始まり（明治～）</li> <li>・近代国家への歩み</li> </ul>
評価方法	
<p>定期考査7割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。評定は地理1：歴史1の割合で合算し、社会科として算出する。</p>	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学3年	特進・進学	社会	歴史	1
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）	
<p>明治以降の日本は、近代国家として国際的な地位を向上させ、政治体制だけでなく国民の生活も大きく変化した。二度の世界大戦を経て、一国の経済の混乱や社会問題が波及するグローバル化の影響など、時代の特色だけでなく、現在の国際社会にもつながる課題に着目し、探究する姿勢を養う。また、公民分野へのつながりを理解し、追究した内容を表現する力も身につける。</p>	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>欧米諸国と対等の関係を築くための条約改正が実現し、日清・日露戦争を経て、日本の国際的地位が向上したことを理解する。工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、その光と影の二面性を考察し、現在の暮らしにも共通点を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帝国主義と日本（近代～）</li> <li>・ アジアの強国の光と影（大正～）</li> </ul> <p>第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きを背景に、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。EdTech 教材を活用して復習の習慣化を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次世界大戦と民族独立の動き</li> </ul>
2 学期	<p>第一次世界大戦後の世界と日本での民主主義の高まり、国際情勢と大衆の出現を理解する。また、世界恐慌が世界各国、および日本の社会や経済に与えた影響を各国の国力と植民地に着目して考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高まるデモクラシーの意識</li> <li>・ 戦争に向かう世論（昭和～）</li> </ul> <p>第二次世界大戦中の日本の政治・外交、戦時下の国民の生活などを基に、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。また、諸資料から戦時中のさまざまな情報を効果的に調べ、表現する。EdTech 教材で自発的な学習を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第二次世界大戦の惨禍</li> <li>・ 敗戦から立ち直る日本（戦後～）</li> </ul>
3 学期	<p>第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解する。これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識を持って探究する。通史全体の知識をEdTech 教材を用いて確認し、各時代の要点を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界の多極化と日本の成長</li> <li>・ これからの日本と世界（現代～）</li> </ul>
評価方法	
<p>定期考査7割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。評定は公民3：歴史1の割合で合算し、社会科として算出する。</p>	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学3年	特進・進学	社会	公民	3
教科書・教材				
『新しい社会 公民』（東京書籍）				

授業のねらい（年間指導目標）	
よりよい社会の構築のため、課題解決に向けて「主権者」としての選択・判断をする際に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につける。18歳選挙権をふまえ、政治・法・経済など各分野に関わる多様な視点から日本の抱える課題を考察し、自分の考えを説明・論述できる力を伸ばす。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1学期	<p>少子高齢化、情報化、グローバル化などの現代日本が抱える課題を理解する。対立と合意、効率と公正など、現代社会の考え方の基礎を、具体例を通して身につけ、現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察する。</p> <p>・現代社会の特色 ・私たちの生活と文化 ・現代社会の見方や考え方</p> <p>民主主義国家かつ法治国家である我が国の政治が、日本国憲法に基づいて行われていることや憲法の基本的原則、象徴としての天皇について理解する。現代社会に見られる人権問題の解決に向けてできることを考察し、自分の言葉で表現する力を身につける。EdTech教材を用いて1学期で学んだ基礎知識の定着を図る。</p> <p>・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障</p>
2学期	<p>議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解する。また、民主政治の推進、公正な世論の形成や具体的な選挙の手続きなど国民の政治参加との関連について、対話的な活動を通じ、主体的に政治に参加しようとする意識を培う。</p> <p>・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち</p> <p>身近な消費生活を中心に、経済活動の意義と市場経済の考え方を理解する。また、雇用と労働条件、消費者保護や環境保全など、現代社会に見られる課題の解決を視野に考察する。EdTech教材を活用して経済用語の理解を促し、基礎知識の定着を図る。</p> <p>・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融</p>
3学期	<p>財政及び租税の意義、国民の納税の義務、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して国や地方公共団体が果たす役割について理解する。また、世界平和と人類の福祉の増大における課題の解決に向けて、国際社会における我が国の役割を考察し、表現する力を養う。EdTech教材を用いて公民分野で学習した内容の総復習を行う。</p> <p>・財政と国民の福祉 ・これからの経済と社会</p> <p>・国際社会の仕組み ・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本</p>
評価方法	
定期考査7割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。評定は公民3：歴史1の割合で合算し、社会科として算出する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校1年	未来探究	社会	歴史総合	2
教科書・教材				
『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
世界と其中的の日本を相互的な視点で捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。歴史に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察することで課題を把握する力を養う。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを学習し、資料から読み取った情報の意味や意義を理解する。 ・アジア諸地域の繁栄 ・ヨーロッパにおける主権国家体制の形成
	18 世紀後半以降の欧米や日本の立憲体制と国民国家の形成を理解し、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付ける。 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・明治維新と諸改革
2 学期	列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、諸資料を基に歴史的事象の意義や課題について議論する力を養う。 ・条約改正と日清戦争 ・世界分割と列強の対立
	第一次世界大戦の推移と影響について、日本と他地域の動向を比較しながら大戦の特徴、日本とアジア地域の関係や国際協調体制の特徴などを多角的に考察する。 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・アジア・アフリカ地域の民族運動
3 学期	第二次世界大戦が与えた影響に着目し、戦後日本の国際社会への復帰と現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化を理解する。 ・第二次世界大戦と太平洋戦争 ・戦後の国際秩序と日本の改革 ・冷戦と世界経済
評価方法	
定期考査7割と、小テスト・課題提出・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校1年	選抜	社会	歴史総合	2
教科書・教材				
『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
世界とそこの中の日本を相互的な視点で捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。歴史に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察することで課題を把握し、解決を視野に入れて構想する力を養う。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを学習し、資料から読み取った情報の意味や意義を理解する。 ・アジア諸地域の繁栄 ・ヨーロッパにおける主権国家体制の形成
	18 世紀後半以降の欧米や日本の立憲体制と国民国家の形成を理解し、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付ける。 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・明治維新と諸改革
2 学期	列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、諸資料を基に歴史的事象の意義や課題について議論する力を養う。 ・条約改正と日清戦争 ・世界分割と列強の対立
	第一次世界大戦の推移と影響について、日本と他地域の動向を比較しながら大戦の特徴、日本とアジア地域の関係や国際協調体制の特徴などを多角的に考察する。 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・アジア・アフリカ地域の民族運動
3 学期	第二次世界大戦の展開と大戦が世界に与えた影響に着目し、大戦後の日本の国際社会への復帰と現代的な諸課題の形成に関わる大戦後の国際秩序の変化を理解する。 ・第二次世界大戦と太平洋戦争 ・戦後の国際秩序と日本の改革 ・冷戦と世界経済
評価方法	
定期考査 7 割と、小テスト・課題提出・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。	

備 考



## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校1年	音楽科	社会	歴史総合	2

## 教科書・教材

『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社）

## 授業のねらい（年間指導目標）

世界とその中の日本を相互的な視点で捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。歴史に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察することで課題を把握する力を養う。音楽などの専門領域を学ぶ上で必要な時代背景や地域の特性に触れることに留意する。

## 授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを学習し、資料から読み取った情報の意味や意義を理解する。 ・アジア諸地域の繁栄 ・ヨーロッパにおける主権国家体制の形成
	18 世紀後半以降の欧米や日本の立憲体制と国民国家の形成を理解し、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付ける。 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・明治維新と諸改革
2 学期	列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、諸資料を基に歴史的事象の意義や課題について議論する力を養う。 ・条約改正と日清戦争 ・世界分割と列強の対立
	第一次世界大戦の推移と影響について、日本と他地域の動向を比較しながら大戦の特徴、日本とアジア地域の関係や国際協調体制の特徴などを多角的に考察する。 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・アジア・アフリカ地域の民族運動
3 学期	第二次世界大戦が与えた影響に着目し、戦後日本の国際社会への復帰と現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化を理解する。 ・第二次世界大戦と太平洋戦争 ・戦後の国際秩序と日本の改革 ・冷戦と世界経済

## 評価方法

定期考査7割と、小テスト・課題提出・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。

## 備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	音楽科	社会	世界史A	2
教科書・教材				
『世界史A』（実教出版）				

授業のねらい（年間指導目標）	
世界史の通史に沿って歴史的事項を概観することで、歴史の継続性や地域間の関連性を理解する。また、音楽などの専門領域を学ぶ上で必要な地域の特性や文化に触れることで、今後の学習活動に寄与する。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	近現代世界を理解するためにユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに、世界が一体化に向かう過程を理解させる。 ・ユーラシア諸文明の特質 ・ユーラシアの交流
	世界が一体化に向かう過程を理解させる。 ・一体化に向かう世界
2 学期	ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況に着目しながら、伝統文化の変容や日本の動向を扱う。 ・アジアの繁栄と世界
	諸地域間の接触と交流、及びそれぞれの変容を通して世界の一体化への動きを理解し、近世の日本の対応を把握する。 ・19世紀世界の一体化と日本
3 学期	現代世界の特質や課題に関わる課題を理解し、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現を展望させる。 ・二つの世界大戦 ・第二次世界大戦後の世界と日本
評価方法	
定期考査7割と、小テスト・課題提出・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	未来探究	社会	世界史B	2
教科書・教材				
『詳説 世界史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
中世から近代までの通史を学習し、歴史の連続性や世界と日本の関わりについて理解する。基礎的な歴史事項の習得を重視しながら、世界の形成の歴史的過程や文化の多様性を広い視野から考察させる。EdTech 教材を復習の機会に活用して知識の整理を行い、学習習慣の定着を図る。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	ヨーロッパ世界がキリスト教を基礎として、地域性を保ちながら東西に形成された過程を理解する。 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化
	ユーラシアの諸地域世界の交流を学習し、世界史を空間的なつながりに着目して整理する技能を身に付ける。 ・内陸アジアの動向 ・東アジア世界の動向
2 学期	ヨーロッパの進出により、諸地域世界の結合が一層進展した経緯と社会の変容が促されたことを理解する。 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス ・宗教改革
	16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向を中心に主権国家の形成の過程とアメリカやアフリカとの関係から大西洋世界が成立したことを学習する。 ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出
3 学期	社会の産業化と国民国家の形成が進展し、ヨーロッパを中心として近代が確立したことを理解する。諸資料にも触れ、歴史的事象を多角的に考察する技能を身に付ける。 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン
評価方法	
定期考査7割と、小テスト・課題提出・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	選抜	社会	世界史B	2
教科書・教材				
『詳説 世界史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
<p>中世から近代までの通史を学習し、歴史の連続性や世界と日本の関わりについて理解する。基礎的な歴史事項の習得を重視しながら、世界の形成の歴史的過程や文化の多様性を広い視野から考察させる。習熟度に応じて発展的な内容を扱い、世界の歴史を構造的に理解しながら歴史的思考力を培う。EdTech教材を活用して学びに対する動機を醸成し、自発的な学習を促す。</p>	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>ヨーロッパ世界がキリスト教を基礎として、地域性を保ちながら東西に形成された過程を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西ヨーロッパ中世世界の変容</li> <li>・西ヨーロッパの中世文化</li> </ul> <p>ユーラシアの諸地域世界の交流を学習し、世界史を空間的なつながりに着目して整理する技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内陸アジアの動向</li> <li>・東アジア世界の動向</li> </ul>
2 学期	<p>ヨーロッパの進出により、諸地域世界の結合が一層進展した経緯と社会の変容が促されたことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ世界の拡大</li> <li>・ルネサンス</li> <li>・宗教改革</li> </ul> <p>16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向を中心に主権国家の形成の過程とアメリカやアフリカとの関係から大西洋世界が成立したことを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重商主義と啓蒙専制主義</li> <li>・ヨーロッパ諸国の海外進出</li> </ul>
3 学期	<p>社会の産業化と国民国家の形成が進展し、ヨーロッパを中心として近代が確立したことを理解する。諸資料にも触れ、歴史的事象を多角的に考察する技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命</li> <li>・アメリカ独立革命</li> <li>・フランス革命とナポレオン</li> </ul>
評価方法	
定期考査7割と、小テスト・課題提出・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	選択	社会	日本史B	2
教科書・教材				
『詳説 日本史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
日本の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義を学習し、歴史に見られる課題を多面的に考察する力を育む。また、歴史的な資料を活用し、課題を解決する能力や情報を読み取る姿勢について学ぶ。EdTech教材を予習・復習に活用し、通史理解の充足を図る。	
授業の進め方（年間指導計画）	
<b>1 学期</b>	<p>原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。遺跡や文化財の写真・レプリカなどの視覚的資料を用いて、歴史への関心を高め、文化財保護の重要性に気付かせ、文献資料の読み解き方を身につける。</p> <p>・原始（旧石器時代） ・縄文文化（縄文時代） ・邪馬台国の成立（弥生時代）</p> <p>中国及び朝鮮半島の情勢と密接に関連しながら、大王（天皇）を中心とする政治制度が整ったことを理解する。また、律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。</p> <p>・古墳とヤマト政権（古墳時代） ・飛鳥の朝廷（飛鳥時代） ・大宝律令</p>
<b>2 学期</b>	<p>律令体制の完成期としての奈良時代から平安前期を中心とした古代国家の推移について、藤原氏を中心とした政治抗争の進展と公地公民制の崩れ、東北経営など土地制度の変容を関連づけて理解する。また、頻出の資料を基に、情報を整理する力を身につける。</p> <p>・平城京の時代（奈良時代） ・平安王朝の形成（平安時代） ・摂関政治</p> <p>国際関係の変化により、国風文化が展開されたことを理解し、既習の文化との違いを理解する。また、文献・絵画資料を読み解き、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達など地方支配の状況を考察し、封建制度など武家政権の成立過程を文章で表す力を培う。</p> <p>・国風文化 ・平家政権 ・武士の社会（鎌倉時代～執権政治）</p>
<b>3 学期</b>	<p>武士の影響が鎌倉文化にまで波及し、南北朝の動乱を経て、室町幕府が確立することを理解する。その中で、東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響を考察する。古代～中世の世界との交流から、世界の現代的課題の解決法を見だし、表現する。</p> <p>・蒙古襲来 ・室町幕府の成立（南北朝～室町時代） ・東アジアとの交易</p>
評価方法	
定期考査7割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	未来探究	社会	現代社会	2
<b>教科書・教材</b>				
『高校 現代社会 新訂版』（実教出版）				
『ニュース時事能力検定公式テキスト（基礎編）』毎日総合教育研究所				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
政治や経済のしくみを中心に学習し、国内外で生起するさまざまな課題について多面的にとらえられる能力を身に付ける。基礎知識の習得はもとより、論理的にものごとを捉える力や主権者としてふさわしい判断力を養う。授業と EdTech 教材による家庭学習を通して主体的かつ意欲的に取り組む姿勢を育てる。	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1 学期</b>	地球環境を多角的に捉える。そのために、まずは各単元を丁寧に繰り返し学習することと、先送りせずに復習を徹底する学習方法を習慣化する。 ・地球環境（地球環境問題、公害防止と環境保全、資源・エネルギー問題） 現代社会のかかえる諸課題について引き続き単元ごとに丁寧に学習した上でそれらをつなぎ合わせる作業を行い、国家間の諸問題の関係性について「気づき」が得られるようにする。 ・現代社会の諸課題（人口問題、社会保障） ・科学技術の発達と生命（死生観、生命科学の発展と倫理、高度情報社会の現状と問題点）
<b>2 学期</b>	権力と権利の源泉と歩みについて基礎から丁寧に理解し、現実とつなげて捉えられるようにする。 ・現代の国家と民主政治（人権保障の発展、国民主権と民主政治の発展） 政治の基本原則を基礎から着実に理解し、現実とつなげて捉えられるようにする。 ・日本国憲法と国民生活（日本国憲法の成立、平和主義、基本的人権の保障、人権の広がり、政治機構、人権保障と裁判所、地方自治、政党と選挙、政治参加と世論）
<b>3 学期</b>	経済の基本原則を基礎から理解し、現実とつなげて捉えられるようにする。 ・現代の経済社会と政府の役割（経済社会の形成と変容、市場、企業、経済成長と景気変動、金融、財政） ・経済活動のあり方と国民福祉（日本経済の歩み、中小企業と農業、消費者問題、労働と雇用）
<b>評価方法</b>	
定期考査7割と、小テスト、課題プリント、授業時の取り組み姿勢など3割で評価する。	

<b>備考</b>

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	選抜	社会	現代社会	2
教科書・教材				
『高校 現代社会 新訂版』（実教出版）				
『ニュース時事能力検定公式テキスト（基礎編）』毎日総合教育研究所				

授業のねらい（年間指導目標）	
<p>政治や経済のしくみを中心に学習し、国内外で生起するさまざまな課題について多面的に捉えられる能力を身につける。基礎知識の習得はもとより、論理的にものごとを捉える力や主権者としてふさわしい判断力が涵養されるよう、授業と家庭学習を通して主体的かつ意欲的に取り組む姿勢を育てる。また、基礎力の充足とあわせて EdTech 教材を用いて基本事項の復習を行い、問題演習により得点力の向上にも努める。</p>	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>地球環境を多角的に捉える。そのために、まずは各単元を丁寧に繰り返し学習することと、先送りせずに復習を徹底する学習方法を習慣化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境（地球環境問題、公害防止と環境保全、資源・エネルギー問題）</li> </ul> <p>現代社会のかかえる諸課題について引き続き単元ごとに丁寧に学習した上でそれらをつなぎ合わせる作業を行い、国家間の諸問題の関係性について「気づき」が得られるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸課題（人口問題、社会保障）</li> <li>・科学技術の発達と生命（死生観、生命科学の発展と倫理、高度情報社会の現状と問題点）</li> </ul>
2 学期	<p>権力と権利の源泉と歩みについて基礎から丁寧に理解し、現代の諸問題に向き合う姿勢を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の国家と民主政治（人権保障の発展、国民主権と民主政治の発展）</li> </ul> <p>政治の基本原則を基礎から着実に理解し、現実とつなげて捉えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法と国民生活（日本国憲法の成立、平和主義、基本的人権の保障、人権の広がり、政治機構、人権保障と裁判所、地方自治、政党と選挙、政治参加と世論）</li> </ul>
3 学期	<p>経済の基本原則を基礎から理解し、経済の特質について多面的に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の経済社会と政府の役割（経済社会の形成と変容、市場、企業、経済成長と景気変動、金融、財政）</li> <li>・経済活動のあり方と国民福祉（日本経済の歩み、中小企業と農業、消費者問題、労働と雇用）</li> </ul>
評価方法	
定期考査7割と、小テスト、課題プリント、授業時の取り組み姿勢など3割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	進学	社会	日本史A	2

## 教科書・教材

『新日本史A』（実教出版）

## 授業のねらい（年間指導目標）

日本や日本周辺における近現代の歴史の変化を学習し、現代的な諸課題との関連性を理解する。また、日本と世界の関わりを自覚し、他国の文化を尊重する姿勢を育む。EdTech教材を復習の機会に活用して知識の整理を行い、学習習慣の定着を図る。

## 授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	19 世紀の世界地図などから欧米諸国のアジア進出を示す情報を読み取り、開国後の社会の変化や倒幕から明治維新に至る経緯を理解する。天皇を中心とする統一国家として政治機構を整えた近代日本における近世政治制度との違いや対外的な課題に気づかせる。 ・アヘン戦争 ・外国船の接近 ・開国 ・岩倉使節団の派遣
	20 世紀初頭の国内外の情勢への関心を高め、憲法制定から条約改正を経て、対外戦争を経験する中で日本が帝国化し、植民地政策を行う経緯を理解する。文献資料も重要度の高いものから扱い、グループワークなどを通し、適切に資料を読み解く力を身に付ける。 ・条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争 ・韓国併合
2 学期	大正デモクラシーに代表される政治や社会の体制を改めようとする動きが、日本を含むアジア諸国にまで及んだ背景を多面的・多角的に考察する。世界恐慌以降の経済と社会状況の変化から日中・アジア太平洋戦争への経緯の基本的な事柄を理解し、新聞記事や地図などの資料からその経緯や背景を適切に読み解き、発表する力を培う。 ・大正デモクラシー ・第一次世界大戦 ・協調外交 ・世界恐慌 ・太平洋戦争
	日本の敗戦までの流れについて関心を高め、国民と周辺諸国の人々に及ぼした影響について意欲的に追究する。また、諸資料（身近な人の体験談や地域史を含む）を活用し、戦中から現在に至るまで残る日本社会の課題をまとめる力を養う。 ・大東亜共栄圏 ・敗戦 ・占領政策 ・冷戦
3 学期	冷戦と日米安保体制への関心を高め、日本の独立と安全保障がどのような背景で構築され、人々にどのような影響が及んだのか、その過程や結果を文章で表現する。時事問題も扱いながら資料を活用し、考察する力を身に付ける。 ・サンフランシスコ体制 ・55 年体制 ・平和運動

## 評価方法

定期考査7割と、課題プリント・レポート・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。

## 備考



## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	特進	社会	日本史A	2
教科書・教材				
『新日本史A』（実教出版）				

授業のねらい（年間指導目標）	
日本や日本周辺における近現代の歴史の変化を学習し、現代的な諸課題との関連性を理解する。また、日本と世界の関わりを自覚し、他国の文化を尊重する姿勢を育む。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>19 世紀の世界地図などから欧米諸国のアジア進出を示す情報を読み取り、開国後の社会の変化や倒幕から明治維新に至る経緯を理解する。天皇を中心とする統一国家として政治機構を整えた近代日本における近世政治制度との違いや対外的な課題に気づかせ、まとめる力をつける。</p> <p>・アヘン戦争 ・外国船の接近 ・開国 ・岩倉使節団の派遣</p> <p>20 世紀初頭の国内外の情勢への関心を高め、憲法制定から条約改正を経て、対外戦争を経験する中で日本が帝国化し、植民地政策を行う経緯を理解する。文献資料も重要度の高いものから扱い、グループワークなどを通し、適切に資料を読み解き考察する。</p> <p>・条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争 ・韓国併合</p>
2 学期	<p>大正デモクラシーに代表される政治や社会の体制を改めようとする動きが、日本を含むアジア諸国にまで及んだ背景を多面的・多角的に考察する。世界恐慌以降の経済と社会状況の変化から日中・アジア太平洋戦争への経緯の基本的な事柄を理解し、新聞記事や地図などの資料を用いて、経緯や背景を適切に表現できる力を培う。</p> <p>・大正デモクラシー ・第一次世界大戦 ・協調外交 ・世界恐慌 ・太平洋戦争</p> <p>日本の敗戦までの流れについて関心を高め、グラフや表などにまとめられたデータから、国民と周辺諸国の人々に及ぼした影響について考察する。また、現代社会や世界史との関連を意識させ、身近な人の体験談や地域史を活用し、戦中から現在に至るまで残る日本社会の課題をレポートなどで表現する。</p> <p>・大東亜共栄圏 ・敗戦 ・占領政策 ・冷戦</p>
3 学期	<p>冷戦と日米安保体制への関心を高め、日本の独立と安全保障がどのような背景で構築され、人々にどのような影響が及んだのか、時事問題とも関連付けながら、その過程や結果を文章で表現する。</p> <p>・サンフランシスコ体制 ・55 年体制 ・平和運動</p>
評価方法	
定期考査7割と、課題プリント・レポート・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。	

備考
----

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	S特進	社会	日本史A	2

## 教科書・教材

『新日本史A』（実教出版）

## 授業のねらい（年間指導目標）

日本や日本周辺における近現代の歴史の変化を学習し、現代的な諸課題との関連性を理解する。また、日本と世界の関わりを自覚し、他国の文化を尊重する姿勢を育む。

## 授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	19 世紀の世界地図などから欧米諸国のアジア進出を示す情報を読み取り、開国後の社会の変化や倒幕から明治維新に至る経緯を理解する。天皇を中心とする統一国家として政治機構を整えた近代日本における近世政治制度との違いや対外的な課題に気づかせ、まとめる力を身につける。 ・アヘン戦争 ・外国船の接近 ・開国 ・岩倉使節団の派遣
	20 世紀初頭の国内外の情勢への関心を高め、憲法制定から条約改正を経て、対外戦争を経験する中で日本が帝国化し、植民地政策を行う経緯を理解する。文献資料も重要度の高いものから扱い、グループワークなどを通し、適切に資料を読み解くき、現在の日本の国際的立場と比較する。 ・条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争 ・韓国併合
2 学期	大正デモクラシーに代表される政治や社会の体制を改めようとする動きが、日本を含むアジア諸国にまで及んだ背景を多面的・多角的に考察する。世界恐慌以降の経済と社会状況の変化から日中・アジア太平洋戦争への経緯の基本的な事柄を理解し、新聞記事や地図などの資料を用いて、経緯や背景を適切に表現できる力を培う。 ・大正デモクラシー ・第一次世界大戦 ・協調外交 ・世界恐慌 ・太平洋戦争
	日本の敗戦までの流れについて関心を高め、グラフや表などにまとめられたデータから、国民と周辺諸国の人々に及ぼした影響について考察する。また、現代社会や世界史との関連を意識させ、身近な人の体験談や地域史を活用し、戦中から現在に至るまで残る日本社会の課題をレポートなどで表現する。 ・大東亜共栄圏 ・敗戦 ・占領政策 ・冷戦
3 学期	冷戦と日米安保体制への関心を高め、日本の独立と安全保障がどのような背景で構築され、人々にどのような影響が及んだのか、時事問題とも関連付けながら、その過程や結果を文章で表現する。 ・サンフランシスコ体制 ・55 年体制 ・平和運動

## 評価方法

定期考査7割と、課題プリント・レポート・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。

## 備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽科	社会	日本史A	2

## 教科書・教材

『新日本史A』（実教出版）

## 授業のねらい（年間指導目標）

日本や日本周辺における近現代の歴史の変化を学習し、現代的な諸課題との関連性を理解する。また、日本と世界の関わりを自覚し、他国の文化を尊重する姿勢を育む。

## 授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	19 世紀の世界地図などから欧米諸国のアジア進出を示す情報を読み取り、開国後の社会の変化や倒幕から明治維新に至る経緯を理解する。天皇を中心とする統一国家として政治機構を整えた近代日本における近世政治制度との違いや対外的な課題に気づかせる。 ・アヘン戦争 ・外国船の接近 ・開国 ・岩倉使節団の派遣
	20 世紀初頭の国内外の情勢への関心を高め、憲法制定から条約改正を経て、対外戦争を経験する中で日本が帝国化し、植民地政策を行う経緯を理解する。文献資料も重要度の高いものから扱い、グループワークなどを通し、適切に資料を読み解く力を身に付ける ・条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争 ・韓国併合
2 学期	大正デモクラシーに代表される、政治や社会の体制を改めようとする動きが、日本を含むアジア諸国にまで及んだ背景を多面的・多角的に考察する。世界恐慌以降の経済と社会状況の変化から、日中・アジア太平洋戦争への経緯の基本的な事柄を理解し、新聞記事や地図などの資料を用いて、経緯や背景を適切に表現できる力を培う。 ・大正デモクラシー ・第一次世界大戦 ・協調外交 ・世界恐慌 ・太平洋戦争
	日本の敗戦までの流れについて関心を高め、国民と周辺諸国の人々に及ぼした影響について意欲的に追究する。また、諸資料（身近な人の体験談や地域史を含む）を活用し、戦中から現在に至るまで残る日本社会の課題と、冷戦構造とのつながりを考察する。 ・大東亜共栄圏 ・敗戦 ・占領政策 ・冷戦
3 学期	冷戦と日米安保体制への関心を高め、日本の独立と安全保障がどのような背景で構築され、人々にどのような影響が及んだのか、その過程や結果を文章で表現する。時事問題とも関連付けながら、資料を活用し、考察をまとめ、発表する力を身につける。 ・サンフランシスコ体制 ・55 年体制 ・平和運動

## 評価方法

定期考査7割と、課題プリント・レポート・授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。

## 備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	選択	社会	日本史B	2
教科書				
『詳説 日本史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
日本の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義を学習し、歴史に見られる課題を多面的に考察する力を育む。また、歴史的な資料を活用し、課題を解決する能力や情報を読み取る姿勢について学ぶ。單元ごとにEdTech教材を用いて理解の補完を図り、自発的な学習習慣を身に付ける。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>織豊政権の統一過程とその政策を、その後の幕藩体制とのつながりに着目して理解する。徳川氏が覇権を握り成立した幕藩体制の特徴を、大名・朝廷・宗教の関係でとらえる。また鎖国の成立過程と対外関係を概観する。</p> <p>・織豊政権（安土桃山時代） ・幕藩体制の成立（江戸時代） ・寛永文化</p> <p>幕藩体制の展開を学習する。体制が安定した徳川綱吉や新井白石の文治政治の実態とその展開を考察し、うち続く平和によって産業、経済、交通が発展し、その豊かさの中で元禄文化が開く道筋を押さえる。</p> <p>・元禄時代 ・経済・交通の発展 ・元禄文化</p>
2 学期	<p>繁栄の後の衰退に対応する享保の改革。唯一成功したといわれる改革の実態と、この時代に展開した宝暦・天明の文化、文治政治を支えた儒学をはじめとする江戸時代の学問を概観する。寛政の改革を見て幕府の衰退が深まってゆくことを理解する。</p> <p>・享保の改革 ・宝暦・天明期の文化 ・寛政の改革</p> <p>大塩の乱を契機とする天保の改革が失敗し、幕末の動乱から幕府が崩壊する政治の複雑な流れを正確に理解する。明治政府による国民国家形成への努力をみてゆく。維新～終戦までは日本史Aでも扱うため、日本史Bの近世とのつながり、現代初頭とのつながりを意識させる。</p> <p>・天保の改革 ・幕府の滅亡 ・明治維新</p>
3 学期	<p>戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革、及びその集大成となる日本国憲法制定について、その経過と内容・意義を考察する。これまで学んだ現代社会や世界史の知識とも融合させ、現代日本が抱える課題とそれに対する日本の役割を認識する。</p> <p>・占領と改革（戦後） ・冷戦の開始と講和 ・高度経済成長</p>
評価方法	
定期考査7割と、課題プリント、授業時の取り組み姿勢などを3割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	選択	社会	日本史演習	2
教科書・教材				
『詳説 日本史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
日本史 A および B で学習した内容を基に問題演習に取り組むことで、受験に必要な知識や解答力を身に付ける。受講者の志望や学習状況に応じて、内容や題材を選択し、実践的な授業を行う。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	<p>日本史 B で既習事項を中心に、用語の確認だけでなく、資料やグラフを読み解く基本的な力が定着しているか、問題演習を通じて確認する。模試偏差値 50 を基準として、教材を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原始古代～院政</li> </ul> <p>文献資料の中でも重要度の高いものが多い時代を扱い、資料中の用語や背景を文章で説明できるよう、表現力を身につける。また、東アジアとの関係も深いため、世界史的知識も踏まえて、地図や写真から読み解く力を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鎌倉時代～戦国時代</li> </ul>
2 学期	<p>近世では、時代の整序問題や正誤問題で大きな差が出るため、政治・社会面での経緯と変遷を正確に理解することが重要となる。演習に取り組みながら知識を整理し、その背景をシンキングツールなどにまとめ、他者と共有して定着度を高める。11 月模試の偏差値 55 を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 江戸時代～三大改革</li> </ul> <p>対外的な戦争が増える近代は、国内情勢と世界情勢のつながりを意識させ、出来事の影響と結果、その後の影響を軸に理解できているか、確認する。資料問題の中でも、グラフや表を用いる問題も増えるため、表題や凡例・リード文などから正確に情報を読み取る力を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幕末維新～太平洋戦争</li> </ul>
3 学期	<p>授業回数が少ない分、時事問題とも関係するような年代・出来事を扱い、卒業後の進路に関係なく、社会に出たときにも活用できる知識のほか、読解力や表現力がついたか、確認する。また受験対象者については、大学入学共通テストに必要な知識を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代史</li> </ul>
評価方法	
定期考査 7 割と、各種問題集の取り組みなどを 3 割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	選択	社会	世界史演習	4
教科書・教材				
『詳説 世界史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
近代から現代の通史を学習し、古代から現代に至る歴史の連続性を理解させる。現代的な課題を把握し、歴史的な背景や要因を多面的に考察する。また、大学受験に必要な知識を身に付け、演習に取り組むことで解答力を高める。EdTech 教材を活用しながら既習範囲の復習を行った上で演習問題に取り組む、復習の習慣化により得点力の向上を目指す。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	近代民主主義社会の基礎が成立して自由主義・国民主義の運動が広がり、19 世紀後半には国民国家の形成が促されたことを理解する。 ・ウィーン体制の成立 ・ヨーロッパの再編
	19 世紀以降の通史を扱い、工業化の進展に伴う国家・社会の変化を理解し、帝国主義時代の動向と社会の特質について考察する。 ・芸国主義と列強の展開 ・世界分割と列強対立
2 学期	第一次世界大戦から第二次世界大戦までの歴史を学習し、国際社会の変遷と 20 世紀前半の社会の特質について考察する。模試の偏差値 60 以上を目標とする。 ・第一次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・第二次世界大戦
	現代世界の成り立ちに関する知識を身に付け、現代社会が抱える諸課題を歴史的観点から探究する。 ・戦後世界秩序の形成 ・米ソ冷戦の激化
3 学期	身に付けた知識と多角的に歴史的な事象を考察する技能を活用して現代的な課題を把握し、解決を視野に入れて構想する。大学入学共通テストに対応した解答力を身に付けることを目標として問題演習に取り組む。 ・入試問題演習
評価方法	
定期考査 7 割と、小テスト・課題提出・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。	

備考

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	選択	社会	現代社会演習	4
<b>教科書・教材</b>				
『高校 現代社会 新訂版』（実教出版）、『高校 政治・経済 新訂版』（実教出版） 『ベストセクション 大学入学共通テスト 2022 政治・経済重要問題集』（実教出版）				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
政治や経済のしくみを中心に学習し、国内外で生起するさまざまな課題について多面的に捉えられる能力を身につける。基礎知識の習得はもとより、論理的にものごとを捉える力や主権者としてふさわしい判断力が涵養されるよう、授業と家庭学習を通して主体的かつ意欲的に取り組む姿勢を育てる。EdTech 教材を用いて既習範囲の復習を行い、大学入試問題で要求される知識の定着を図る。	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1 学期</b>	現代日本の政治のしくみと歴史を正確に理解し、現実の問題とつなげて捉えられるようにする。 ・戦後政治の歩み、選挙制度と政党、政治参加と世論 現代経済の現状を他国との比較も交えながら理解し、あるべき姿を考える力を養う。 ・中小企業と農業、消費者問題
<b>2 学期</b>	現代の国際政治の状況を分野ごとに捉えた上で、それらを俯瞰できるようにする。 ・国際法、国連、現代国際政治、核兵器と軍縮、国際紛争と難民 世界経済の現状を正しくとらえ、日本の関わり方について考える力を養う。 ・貿易と国際収支、国際経済体制、グローバル化、地域経済統合、経済協力 ・NEWSPAPER IN EDUCATION
<b>3 学期</b>	入試問題形式の演習問題に取り組み、解答力の向上を図る。また、大学入学共通テストに対応できる能力をつける。 ・政治・経済各分野 ・NEWSPAPER IN EDUCATION
<b>評価方法</b>	
定期考査7割と、小テスト、課題プリント、授業時の取り組み姿勢など3割で評価する。	

<b>備 考</b>

## シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	選択	社会	時事研究	3
<b>教科書・教材</b>				
『ニュース時事能力検定公式テキスト（発展編）』毎日総合教育研究所				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
現代社会が抱えるさまざまな事象や問題について、広く知り、公平に判断し、主体的に関われるようになることを目指す。そのために、座学のみならず、学んだことを実践に移す機会として、開発途上国への学校給食支援活動 TABLE FOR TWO や教育での新聞活用 NEWSPAPER IN EDUCATION などに取り組む。「学んだだけで終わらせない」で「教室を社会とつなげる」ことを目指す。また、ニュース時事能力検定ならびに国公私大入試の論述や面接に対応できる能力を高める。	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
1 学期	『ニュース時事能力検定公式テキスト』と理解力アップシート、レジュメを用いて、基本的な知識をインプットする。 ・政治、社会・環境分野
	『ニュース時事能力検定公式テキスト』と理解力アップシート、レジュメを用いて、基本的な知識をインプットする。TABLE FOR TWO に取り組み、社会課題に目を向ける姿勢を養う。 ・経済・暮らし、国際分野 ・NEWSPAPER IN EDUCATION
2 学期	NEWSPAPER IN EDUCATION の手法で、社会問題について既習の知識と現実に生じている問題をつなぎ合わせ、各自がアウトプットできるまでに力を高める。 主権者教育の一環で、記者派遣授業を行う。
	NEWSPAPER IN EDUCATION の手法で、社会問題について既習の知識と現実に生じている問題に着目し、多角的に考察する力を養う。 ・労働問題 ・TABLE FOR TWO
3 学期	公民分野で学習した内容を総括するとともに、それらを現実の問題が生じたり解消しない理由に引きあわせて各自が分析を行えるようにする。 ・NEWSPAPER IN EDUCATION
<b>評価方法</b>	
定期考査7割と、小テスト、課題プリント、授業時の取り組み姿勢など3割で評価する。	

<b>備考</b>